



令和2年4月7日

岐阜大学工学部

工学部長 村井利昭

皆さん、工学部へ入学おめでとうございます。先月までは生徒だった皆さんは学生になりました。学生とは学びに生きる人です。皆さんは自然科学を専攻しています。その前に自然ってなにかわかりますか。それは人間の意志でコントロールすることができない現象やものです。宇宙、地震、天候、動物、植物さらには生物と無生物の間にあるウイルスもそうです。その中の例えば樹木、残念ながら今年はまだ大学のキャンパスで育つ多くの樹木と巡り会うことはできませんが、通学できるようになったときにはキャンパスに来るたびに樹木の姿を目に止めてください。ある日にはその変化の兆しを感じることもできると思います。もっと言えばその僅かな変化の兆候をキャッチできる人にもなってほしいです。

皆さんはこれから、新たな未知の世界に浸ることになります。まずは四年後、こんな自分になっているだろう、あるいは何かについて自分は今こう考えている。というリストを作成してみませんか。〇〇のことを熟知しているはずである、〇〇へ旅をして△△を経験するはず、〇〇に関する事業で起業したい、〇〇さんのことが大好きでそれは△△の点が素敵なので、などなど、様々あるかと思います。ついでそれをどこかに封印しておきましょう。四年後改めてそれを開き、ほぼ予想通りなのか、四年前に考えていたこととは全く違う自分になっていて、その文章を読んでいるうちに気恥しくなるのか、今から楽しみにしておいてください。

さて工学部では幅広い学問分野を学びます。一年生の前学期では、わずかに開講されている自然科学に関わる学問に触れることができます。一年生後期から

本格的にそれらの科目を受講することになります。これまで全く知らなかった言葉、その意味や使い方を知ると同時に、他の人へ伝えることができるような適切な使い方も訓練します。「順序立ててものごとを考え、伝えたい相手に正確に伝える」ことも大切です。そのための言語、第一は日本語、ついで英語、身体に浸み込ませたい学問があふれています。

ちなみに日本は世界でも例外的に「日本語」を長きにわたって使っています。おかげで、奈良時代、平安時代や鎌倉時代の文書も読めなくはない。また日本語がベースになっている豊かな文学もあります。たとえば以下は鎌倉時代、鴨長明が記した随筆「方丈記」の一節です。「万物流転」を見事に表しています。

「ゆく川の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたたかは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。」

皆さんは高校時代苦手だったかもしれませんが、平安時代、鎌倉時代の文学を原文で読むことにもチャレンジできるし、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介らの明治以降の文学に触れることもできます。図書館や書店で、何気にこれらの一冊を、数行でいいので、読んでみてください。そのリズム感に誘われて、読み始めちゃったという経験もしてほしいです。自宅待機の期間は、webサイトでこの本読んでみようかと手を出してみるよい機会でもあります。

また大学生になると、多くの先生方と出会います。ここで言う先生は、私たち教員だけではなくて、いわば結果として人生の恩師になるような人、芸術作品や書物などもそうです。その出会いはある日突然です。時には自分が通り過ぎた何か気になって師事するということもあるかもしれません。ジョージ・ルーカス監督のスペースオペラ「スターウォーズ」のテーマの一つが、師（先生）と弟子

です。エピソード IV のあるシーン、ルーク・スカイウォーカーは「こんな田舎の星、いつかは出たい」と呟く。その気持ちを支援しようとする育ての親であるおば様、一方でその性格に心配感を抱くおじ様。そんな中ルークはオビ・ワン・ケノービの突然の訪問を受ける。他の星に行くことを誘われたものの、自分の気持ちとは裏腹に、おじさん、おばさんたちのことを話題にして断る。がその後オビ・ワン・ケノービが師となって行動を共にして想像もしなかった世界に飛び込むわけではあります。このスターウォーズの映画のもう一人の重要な登場人物、それはダースベーターです。彼も先生から様々なことを学びました。そのとき「これ以上先人たちからは学ぶことはなくなった。彼らの限界を知った。これからは若い自分たちが中心になって新しい世界をつくるのだ」という思いに惑わされた。これがダークサイドです。学びの奥深さは、それを重ねれば重ねるほど、「自分には知らないことばかりだったんだ。まだまだ知らない世界が一杯だ」と実感するところにあります。

これからの大学生活、皆さん一人一人が実体験を通して、その後の人生を豊かに生き延びることができるように、人として成長・成熟することを願っています。

May the force of learning be with you.

なおしばらくお休みが続きます。もし今後のことなど、私に相談してみたいことがありましたら、電子メールにて、あなた自身の名前とともに、なんなりと知らせてください。

村井電子メールアドレス : mtoshi@gifu-u.ac.jp